

第13回かたりばカフェのご案内

前回は島根大学の前田しほ先生から歌(歌謡曲)が戦意高揚のためのプロパガンダとして使われていることを実際の歌を聞いたり、動画を観たりしながら学びました。知らないうちに取り込まれてしまう怖さを実感することができましたし、本当に大丈夫なのか常に疑ってみることの大切さを学ぶことができました。

前々回、ウクライナを中心とした東ヨーロッパの歴史を古代に遡って学びましたが、今回はいよいよウクライナの怒濤の近代史を学び、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の背景に迫っていきたいと思います。

みなさんの参加をお待ちしています。学びの輪を広げましょう。

☆日 時 **2月18日(土) 13:00~16:00**

☆参加方法 **会場参加(島根県民会館305) or オンライン参加**

☆参加費 **無料。未組の方の参加も大歓迎です。**

☆その他 **マスクの着用をお願いします。手指消毒、検温にご協力ください。新型コロナウイルス感染症の状況によっては、延期または中止する場合があります。**

☆問合せ先 **島根県教職員組合 TEL (0852)21-2767**

担当 // **専門委員 元田一雄**

2/18(土)「かたりばカフェ」参加申込書

() 学校 氏名 ()

☆参加方法 **会場参加 () オンライン参加 () ↓**
(どちらかに○を) [メールアドレス:]

☆前回の学習会の感想より☆

今日も学びが多かった。戦争が起ること自体が政治的、経済的な側面だけでなく、歴史的な側面も、そして芸術や文化などの側面もあり、「深い」と思いました。さらに勉強していきたいと思いました。

「カチューシャ」が軍歌であることも驚きだった。先日、「ウクライナに平和の光をとりもどしたいから、『希望の光』を書き初めて書きたい。」と言った子どもの言葉を忘れることなく、学び続けたい。

プロパガンダが押しつけ的な形だけではなく、歌やダンス、文化としてじわじわと長年かけて行われていることに驚きました。ソ連として戦勝記念を賑やかに続けていることも敗戦国としては共有できない感覚です。プロパガンダの子どもへの影響は大きいので、教育としての役割という意味もどんな国でも大事だと思いました。

初参加でした。音楽が切り口で、自分がすごく影響を受けやすい人だと感じました。でも、自分だけでなく多くの人が影響を受けて、利用されているので怖いと思いました。戦争のとらえ方が3つあると知り、そしてそれが共有されないと、妥協点が見つからないと言われ・・・ハッとしました。ありがとうございました。

ロシア人が権力を恐れる、黙ってしまう、忖度する・・・国民性だと聞き、私たちもそうなのではないか、そうであってはいけないと思いました。反戦思想と正戦思想、そして現実主義・・・県教研の時も話して頂いて理解しているように思いましたが、まだ理解できていないことも突きつけられました。反戦思想が陥ってしまいそうな戦争責任をうやむやにしてしまうのではないかという視点、奥が深いし、大事だと思いました。

頭だけでなく、感覚の大事さ、知らないうちに取り込まれてしまう怖さを感じる事ができました。反戦思想と正戦思想、現実主義のそれぞれの土俵を取り囲む土俵が必要だと思いました。歌をたくさん聴き、今までと違った学習の場になりました。でも、根本にある、じゃあどうする?という命題は解決できていません。